

第58回安城市自然観察会報告

去る7月30日（金）、安城市教育研究会主催の第58回安城市自然観察会が行われました。安城市川島町矢作川河川敷公園をフィールドとして使い、参加者・運営スタッフを含め200人近くになる大きな観察会です。昨年はコロナ禍のため、60年近い歴史の中ではじめて中止になり、今回は新型コロナ感染防止や熱中症などの対策を講じながら、2年ぶりの開催です。

研究会からは、顧問の金森正臣先生（哺乳類のフィールドサイン）、副会長の堀田喜久先生（植物の観察）、幹事の山崎隆弘さん（昆虫類の採集方法）と杉山時雄さん（野鳥観察）の4名が外部講師として参加し、安城市小中学校の理科の先生たちとチームを組んで、それぞれのご専門の立場から参加した親子連れを指導します。

朝の8時からの行事でしたが、すでに気温はずいぶん高く、熱中症を心配しながらの進行でした。開会式の中で金森先生が、閉会式の中では堀田先生が外部講師を代表してあいさつをされました。

矢作川の管理する国土交通省が河畔林を伐採してしまったため、大きく景観が変わってしまいました。このため例年のやりかたが使えないメニューも多く、大幅に内容を変えたブースも見られました。さらに、連日の猛暑に加えてほとんど雨の降っていない河川敷は、オオブタクサの群落までしおれてしまうほど乾ききっていました。

それでも、参加者は虫かごにバッタ類をいれたり、プラ水槽に淡水エビを入れたり、暑い中ながらうれしそうに歩いていました。普段はなかなか見ることのできない矢作川河川敷の自然を満喫していたようすです。午前10時には、無事に閉会しました。

（文責：小鹿 亨）

